

行政説明

文部科学省 高等教育局学生・留学生課 課長 渡辺 正 実

文部科学省高等教育局学生・留学生課課長の渡辺です。本日は、行政説明の最初ということで、私からは文部科学省の取組を中心に説明させていただきます。お手元の資料の行政説明資料というものの、文部科学省の①というものが私の資料になります。時間が限られておりますので、私からはお手元の資料を手元に置いていただきながら、エッセンスについて紹介させていただこうと思います。

まず平成26年度の就職内定状況については、御承知のとおり、先ほど御紹介がありましたように、リーマン・ショック以前の水準まで回復してきたという状況にあって、なおかつ今年については、さらに売り手市場だというようなことも言われております。一方で、実際に就職活動している学生さんたちの話を聞いてみると、やはり世の中はそういうふうにも言っても、自分たちは全く変わらない、厳しい状況に変わりないと、なおかつ後ろ倒し等について、先輩たちのノウハウが生かされないということなど、かなり危機感を持って対応しているのではないかとこのふうにも思っております。後ろ倒しは、今年からということなのですが、これも何度も何度も資料にある図などを見ていただいていると思うのですが、実は文部科学省は、就職問題懇談会の事務局として本年5月1日現在で各学生さんたち、あるいは大学がどのような対応をしているのか調査を行いました。調査結果については、今週中か1週間以内を目途に公表したいと思っておりますが、調査結果を少し紹介いたしますと、本調査は抽出調査で大体学生さんの数は四千数百人程度であります。なんと数パーセントの学生さんが、後ろ倒しを知らないという回答をしております。このことは驚きでありまして、それが本人の問題であるのか、教育機関サイドによる学生に対する周知がなされなかったのかということもあると思うのですが、事実として5月1日現在では依然として数パーセントの就職活動を行うような年次にいる学生さんたちが、後ろ倒しということを認識していなかったということでしたので、我々としても引き続き、後ろ倒しの周知については徹底をしていきたいと思っております。また、学生さんが後ろ倒しを知った方法は現場の先生方からのアプローチということが大きくて、大体大学を通じて知ったというのが半数ぐらいです。また、メディアの報道を通じて知ったというものが半数ぐらいでしたので、是非ともその辺りについては各大学等におかれて、御指導をよろしく願いいたします。

それから、以下の点について、メッセージとして今日はお伝えしようと思っております。お手元の資料の13ページ、14ページ。それから16ページ、17ページ辺りについては、昨年から今年に策定された、就職問題懇談会の二つの申し合わせを付けております。この申し合わせを見ていただくと、それぞれの申し合わせはA4で両面コピーすると1枚に収まるように、そういう作りになっています。それから就職問題懇談会とは一体何のかっていうことの趣旨も少し書いております。我々もまた今後、少し表現の仕方を考える必要があると

思うのですが、この二つの申し合わせは、各大学から企業の方に直接お渡しいただくということを前提としたものです。特にキャリア教育については、昨年、後ろ倒しが決まったときに、経団連のほうでも指針を見直していただいて、後ろ倒しと明記していただきましたが、最初の段階では、大学におけるキャリア教育には、経済界としてはあんまり協力できないということが盛り込まれていたのです。しかし、そうではなくて、一定のルールの下でキャリア教育に積極的に参加していただけるということが経団連と大学側とで合意されましたので、そういうことも含めた形で、まず 13 ページ 14 ページのキャリア教育の申し合わせを作成しています。それから今年の 2 月にまとめた就職採用活動時期の変更に關わる申し合わせについても、これは本年 3 月 1 日から後ろ倒しが始まったわけですし、そういうことも含めてあらためて周知をしたい。周知をする方法として、我々としても様々な形でメディア等を通じて、あるいは直接企業の方々にも案内通知をお送りしているのですが、なかなか周知されないということもあるので、これについても、各大学には求人票の提出であるとか、あるいはガイダンスの説明会等がなされていると思いますので、そうした場を通じて、この申し合わせについて直接企業の方にお渡しいただいて、後ろ倒し、それからこの申し合わせの中にも記載はしておりますが、学生が学生時代に、人物を見るという観点からは勉強以外にどんな活動をしたのか、部活は何をしたのかということも聞いていただいて結構なのですが、やはり学生として、学生時代にどのような学修活動したのかということについてもしっかりと是非聞いていただきたい。これは学校教育の中で大学の教育がいかにきちんとできていくかということについても、しっかりと聞いていただきたいというメッセージです。それからもう一つは、学生さんは、初めて就職活動を行うのに対して、企業の方は、人事の方は百戦錬磨でたくさんの学生を見ながら、あるいは何年もかけて担当しているわけでしょうから、どうしても学生さんたちにとってみればなかなか状況というのも分かりづらいということもあるので、そうしたことも含めて公平・公正な採用活動をしていただきたいということでもあります。

繰り返しになりますけれども、申し合わせは、今日大学の方が 300 校ぐらいいらしてまずし、企業の方も同じ数ぐらいいらっしゃるのですが、今日この場の成果としては、大学の方には申し合わせは直接お渡しいただくということを、それから企業の方も是非大学がこういうことを考えているのだということを御理解いただければと思います。ちなみに先ほど申し上げた抽出調査の中では、大体 4 割ぐらいの学校の方が申し合わせをお渡ししているようなのですが、6 割の学校ではお渡しできていないということですので、是非とも、今日からでも間に合いますので、よろしくお願ひします。繰り返しになりますけれども、公平・公正な就職採用活動のためにということも含めて、学生さんたちがより良い仕事に就いていただけるということが前提となりますので、何卒御協力をお願いしたいと思います。

それからこれは少し宣伝でもあるのですが、『トビタテ！留学 JAPAN』に関する資料を 19 ページから 20 ページに付けております。これは文部科学省が中心となって、関係各省の御

協力をいただきながら、企業からの御寄付をいただいて学生を海外に派遣していくという取組をしております。『トビタテ！留学 JAPAN』というそのものは、これは留学をエンカレッジするキャンペーンです。もちろん中心となる日本代表プログラムというのは、企業からの寄付を受けて行っているのですが、それだけではなくて、やはり学生さんが学生時代に様々な経験をする、そういう中でも日本国内だけではなく海外に行って、今世界で何が起きているのかっていうことなんかを含めて理解し、それを将来社会に引っ提げていくということも含めて進めております。後ろ倒しをしたことの趣旨の一つにも、留学して帰ってきて就職活動に間に合うということも入っておりますので、是非これについても御理解・御協力のほど、よろしく願いいたします。それから、個別に文部科学省の幹部が一社一社個別に訪問をお願いしているのですが、なかなか人数が限られているので、まだ 600 社ぐらいしか回れていません。今日お越しの会社の方々の中でも何社か回らせていただいている会社があるかもしれませんが、少しでも関心があるということであれば、我々いつでも説明に伺いますので、是非、御一報いただければと思います。

それから留学生についての資料も 21 ページから 23 ページに付けさせていただいております。留学生の、日本に来る外国人留学生の人たちが、まずは日本に来るきっかけって何なのかなということを知っていると、結構多くの人たちは、例えばアニメとか、いろんな日本の文化から日本をまず知って、それから、実は日本は非常に高い技術もあるのだということを知りながら来るというパターンなどが多いそうなのです。昔は、80 年代とかは、様々な形で日本がバッシングされた時期は逆の意味で日本の技術力が評価された時期もあったと思うのですが、今の人たちは、そういった日本の文化などを通じて日本を知り、そして日本へ来て、日本の高等教育機関で学び、中でも特に優秀な学生さんについては、是非日本の企業等でも働いていただけるのが良いのではないかと思います。在留資格で留学ビザから就労ビザに切り替わっている数については、データはここにお示ししていませんが、近年連続的に増えています。直近では 1 万 1000 人ほどのデータになっていますので、毎年少しずつ学生さんは増えているのですが、まだなかなか在留資格をきちんと切り替えるための手続き等において現場の入国管理局等ではトラブルなんかもあるような話も聞くのですが、この辺りにについても少しでもそういった留学生の方々をきちんと雇用できるように、我々として関係省庁と連携しながら取り組んでいるところであります。

最後に、もう一度繰り返しになるのですが、皆様、全ての方々をお願いなのですが、1 人でも多くの学生が、社会人としての第一歩を着実に踏み出すことができるように、公平かつ公正な就職採用活動というのを是非行っていただきたいと思います。それが取り方、取られ方によっては、例えば、ちょっと威圧的な感じを受けたとか、あるいはハラスメント的な行為を受けたとか、そんなことがあったりするのかもしれませんが、そこはやはり、日本の将来というのは、若い人たちに懸かっているわけでもあるので、是非そういった学生さんたちがより良い一歩を踏み出せるように、御支援と御協力をいただければと思います。冒頭の吉田局長の挨拶では、女性活用という話もありました。特に理系の女

子ですね。女性活用の中でも特に理系に進む女子が少ないということで、何とか我々としても理系に進めるような女子、初等中等教育段階から技術に対して関心を持っていただけるような取組というのもこれから行っていきたいと思っております。それから、留学の話もしたのですが、実は、今は留学のほうは圧倒的に女子のほうが優位なのですね。『トビタテ！留学 JAPAN』でつい先週土曜日に壮行会をやったのですが、高校生では、303人選んで、そのうちのなんと男子は85人であり、女子が218人でした。大学では、第3期のほうは今選考中ですが、第1期第2期では、やはり応募の段階から女子のほう元気いいです。もちろん社会として今女性活用が叫ばれておりますが、別の視点では、若い人たちについては、特に高校生では、もう少し男子にも頑張ってもらわないといけないと思っております。そうしたこともこれから進めていきたいと思っておりますので、何か良いアイデア等がありましたら、御一報いただければというふうに思います。御静聴ありがとうございます。